

日 程 第1日目 10月16日(木)

時 間	内 容
10:00	受 付 (金沢歌劇座ロビー)
11:15	オープニングセレモニー (琴曲・謡曲)
12:00	開 会 式 開会の挨拶 主催者挨拶 来賓祝辞 来賓・祝電紹介
12:45	休 憩 (15分)
13:00	基調講演 「『あなた 病気の人、私 治す人』から 『私も家族の一人です』と言えるようになって見えてきたこと」 講 師：夏苺 郁子 氏 児童精神科医・やきつべの径 診療所 医師
14:15	活動報告 「障害者施策の動きと私たちが求める家族支援」 報告者：川崎 洋子 氏 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会 前理事長
14:45	休 憩 (20分)
15:05	行政報告 厚生労働省
15:35	記念講演 「精神科利用法 -叩けよ、さらば開かれん-」 講 師：川崎 康弘 氏 金沢医科大学精神神経科学教授
16:50	事務連絡・移 動
18:30 ～20:30	懇 親 会 金沢エクセルホテル東急

第2日目 10月17日(金)

時 間	内 容
9:00	受 付
9:30	分 科 会 第1分科会 家族会活動 「何が活力の源か？」 ～家族会活動これからの10年～ 第2分科会 就労促進 「障害があっても働ける」 ～働くことを妨げているのは何か～ 第3分科会 偏見・差別 「偏見・差別と向き合って」 ～精神障害への社会的偏見・差別について～ 第4分科会 家族支援 「家族への支援について」 ～家族が望む「家族支援」とは～ 第5分科会 障がいのある本人の活動 「元気でやっています」 ～福祉サービスを上手く使って～
11:30	休 憩・移 動
11:45	閉 会 式 分科会報告 大会アピール 次期開催地挨拶 閉会のあいさつ

全体会

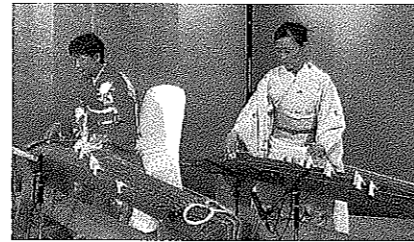
10月16日(木)

オープニングセレモニー

11:15～11:50

琴曲演奏

戦災を免れた金沢は、木々の緑に囲まれ、鼓・三味線・笛など伝統芸能が根付いた静かな街です。今回は、開会式直前で人の出入りがあることを見込んで、女性3人によるお琴の合奏を企画しました。遠くからお越しの皆様には、お疲れを癒し、「金沢らしい」和んだ雰囲気味わっていただければ幸いです。



謡曲演奏

能楽の盛んな金沢での開催に相応しいものとして、実行委員の道見さんから謡曲の説明とサワリを実際に披露してもらいます。謡は儀式であり、以降の進行にいくらかの張りを生じさせてくれることでしょう。

開会式

12:00～12:45

開会の挨拶 主催者挨拶
来賓祝辞 来賓・祝電紹介

基調講演

13:00～14:15

『『あなた 病気の人、私 治す人』から
『私も家族の一人です』と言えるようになって見えてきたこと』

講師：夏苺 郁子 氏

児童精神科医・やきつべの径 診療所 医師

現役の精神科医ですから、病気や治療のお話も伺いたいところですが、今回は演題にもあるとおり、家族として悩んだり苦しんだりされたご経験、そして家族である(あった)ことを明かしたことで何がどのように変わったのか? 今、私たちに訴えられたいことなど縦横に語っていただきます。時間が限られているのが残念ですが…。

活動報告

14:15～14:45

「障害者施策の動きと私達が求める家族支援」

報告者：川崎 洋子 氏

公益社団法人 全国精神保健福祉会 前理事長

長年の家族会の願いだった保護者制度はなくなりましたが、医療保護入院の家族等の同意が位置づけられ、課題は残りました。家族が障害者の世話をするのが当たり前のわが国の状況を変えなくてはなりません。今困っている私たちにどのような支援がされるべきか、家族一人一人が声をだしていくときです。家族といっても親だけではありません。兄弟姉妹、伴侶が病気の方、また、親御さんが病気の方など、それぞれが大変さを抱えています。家族の負うことを無くし、家族が普通に楽しみ、喜びを持って生きていける社会の実現をこの大会で考えていきたいと思えます。

行政報告

15:05～15:35

厚生労働省

記念講演

15:35～16:50

「精神科利用法 一叩けよ、さらば開かれん」

講師：川崎 康弘 氏

金沢医科大学精神神経科学教授

統合失調症や感情障害の病態解明のため、脳科学的な臨床研究に取り組まれている充実期にある気鋭の学者であり、精神科医です。現在、5つもの学会に所属し、学術論文も多数発表されています。今回は日頃の研究成果にも触れながら、家族の苦労にも心を寄せ、平易に親しみやすい言葉でお話しいただきます。

分科会 10月17日(金) 9:30～11:30

第1分科会 家族会活動

何が活力の源か？ ～家族会活動これからの10年～

新しい会員が増えない。会員の高齢化が加速し、止まらない。役員を引き受けてくれる人がいない。こんな話題に事欠かない昨今です。

しかし、会員の多くは「家族会に入って救われた」と一度ならず実感しており、それ故に「家族会を無くしてはいけない」という思いを強くもっています。また、お互いに共通の悩みを抱える一人として、それをリアルに出し合い、そして聴く事を通じて、計り知れないほど多くのことを学んでいます。

だからこそ、今日の例会に出てきて良かった。次回もまた出よう…。そんなエネルギーが湧いてくるのではないのでしょうか？ その活力をバネに、家族会活動の「これから」を展望し、希望をもって活動していくため、今何をしたら良いのか、各自の体験を基にお互いに語り合しましょう。

コーディネーター：木全 義治 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会 副理事長
 問題提起者：眞壁 博美 東京
 出店 三恵子 福井
 小林 照子 石川
 司会者：星 真人 新潟

第2分科会 就労促進

障害があっても働ける ～働くことを妨げているのは何か～

「雇用率を達成するための雇用」から「企業に必要なから雇用する」へ。障害のある人は「助けなければならない対象」から「仕事の結果を出すことで信用を得る」へ。「本人や家族の自助努力には限界がある」から、身近な「就労支援事業所を利用する」へ。「福祉的就労」から「一般就労」へ。「障害があるから配慮」から「障害があるゆえの強み（障害特性業務を集めることで実績を上げる）」へ。など、障害のある人の就労についても、権利条約を受けて発想の転換が求められているのではないのでしょうか？

働くことを通じて、自分の仕事に責任をもつことができるようになり、それが自信につながり、社会への視野を広げ、社会生活を広げていく糧になればと願うものです。

新聞や雑誌上で踊る「見出し」レベルからは程遠い現実（実情）を具体的に出し合い、理解を深めましょう。

コーディネーター：中田 なみ子 全国精神障害者地域生活支援協議会 理事
 本田 雄志 石川県精神障害者支援事業所連絡会 会長
 問題提起者：金塚 たかし 大阪
 田邊 成治 新潟
 石田 哲夫 石川
 司会者：寺田 秀雄 富山

第3分科会 偏見・差別

偏見・差別と向き合って ～精神障害への社会的偏見・差別について～

精神疾患に対する社会的偏見は、患者本人だけでなく家族をも巻き込んで、深く根をはり、頑強にのさばり続けています。

そのため、障害のある本人・家族は、病気そのものの苦しみや「支援」がないことの苦しみに加えて、社会の「理解」がないことで苦しんでいます。例えば、経済的理由から治療を中断したりして再発する例、年老いた親が自らの亡き後を憂いながら死を迎える例など、先進国として実に恥ずかしい例が後を絶ちません。また、国策として続けられてきた隔離政策への謝罪や反省はなく、学校教育でも、薬物濫用を戒める指導はあるものの、精神疾患についての教育は全く行われていません。これでは、長期間にわたって醸成されてきた偏見やそれを行動化した差別は無くならないのではないのでしょうか？

権利条約が発効した今日も解消されていない「この国に生まれた不幸」を、今後どのように解消していけばよいのか、お互いの体験を基に語り合い、差別を許さないための理解を深め合しましょう。

コーディネーター：夏刈 郁子 児童精神科医・やきつべの径診療所 医師
 問題提起者：野地 芳雄 京都
 戸田 充文 長野
 中元 雅子 石川
 司会者：浦田 洋 石川

第4分科会 家族支援

家族への支援について ～家族が望む「家族支援」とは～

精神に障害のある人の家族が願うのは、何よりも病気の予防や治療法が格段に進歩し、本人の病気が回復することです。仮に、それが叶わない場合でも、精神保健医療福祉システムが高度に整備され、本人のみならず、家族も落ち着いて暮らしたいと願っています。

また、周りを見渡してみても、本人が今より幸せになれるのではないかと偏見が強く押し寄せはしないか？ 本人へのケアから家族（親）は何時になったら解放されるのだろうか？などと、見通しの立てにくい生活に不安と焦りを感じながら暮らしています。

特に、本人が苦痛を訴えながら、受診を拒否したりしている時などに強く願うのは、多職種チームで訪問して対処してほしい…などと強く望む声が絶えません。

イギリスなどで取り組まれ、既に実現して効果を上げている例についての報告も交えて、理解を深め希望にと繋げていきましょう。

コーディネーター：角田 雅彦 石川県こころの健康センター 所長
 問題提起者：川並 正幸 滋賀
 朝日 眞知子 富山
 佐藤 純 ノートルダム女子大学准教授・みんなねっとプロジェクトチーム
 司会者：榛葉 智昭 長野



後援団体



(予定・順不同)

第5分科会 障害のある本人の活動

元気にやっています

～福祉サービスを上手くつかって～

障害を抱え、それと付き合いながら地域で暮らしていくことは、権利条約発効後の今日でも簡単なことではありません。しかし、自らの努力と周囲の理解を得つつ、福祉サービスを上手く使って、生き生きと生活している人が増えてきているようです。更に、病気や障害を隠さずに、必要な支援を受けながら、働き続けている人も少なくありません。

また、障害のある本人の頑張りを正しく評価し励ましなが、困難を恐れず、支援者として情熱を傾けておられる専門家の方々も大勢おられます。

かつては厳しい時期を経験し、それを乗り越えてきた貴重な体験や、今描いている夢など愉快地に楽しく、様々な方々から報告してもらいます。それらを聴いて、フロアーからも活発に発言し、明るく交流を深めましょう。

コーディネーター：荒田 稔 社会福祉法人 なごみの郷 理事長
 問題提起者：拓殖 昭和 岐阜
 笠原 健 兵庫
 上野 勝洋 石川
 司会者：小寺 清隆 福井

後援団体・全国

内閣府
 厚生労働省
 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
 全国精神保健福祉センター長会
 全国保健所長会
 特定非営利活動法人全国精神障害者団体連合会
 公益社団法人 日本てんかん協会
 社団法人 日本自閉症協会
 公益社団法人 全日本断酒連盟
 社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会
 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟
 公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会
 公益財団法人 日本精神衛生会
 公益社団法人 日本精神科病院協会
 公益社団法人 日本精神神経科診療所協会
 NPO法人 全国精神障害者地域生活支援協議会 きょうされん
 社団法人 日本社会福祉士会
 全国精神保健福祉相談員会
 社団法人 日本精神科看護技術協会
 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会
 NPO法人 全国精神障害者就労支援事業所連合会
 一般社団法人 日本作業療法士協会
 精神科臨床薬学研究会
 社会福祉法人 NHK厚生文化事業団
 社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
 社会福祉法人 読売光と愛の事業団
 社会福祉法人 中央共同募金会
 財団法人 日本チャリティ協会
 公益財団法人 明治安田こころの健康財団

後援団体・県内

石川県
 金沢市
 石川県社会福祉協議会
 金沢市社会福祉協議会
 石川県医師会
 石川県保健医協会
 石川県保健所長会
 石川県神経精神科医会
 日本精神科病院協会 石川県支部
 石川県精神保健福祉協会
 日本てんかん協会 石川支部
 石川県薬剤師会
 石川県社会福祉士会
 日本精神保健福祉士協会 石川県支部
 石川県看護協会
 日本精神科看護技術協会 石川県支部
 石川県医療ソーシャルワーカー協会
 石川県作業療法士会
 石川県臨床心理士会
 日本精神神経科診療所協会 石川県支部
 石川県病院薬剤師会
 石川県精神障害者支援事業所連絡会
 石川県障害者社会参加推進センター
 石川県障害者職業センター
 石川県メンタルヘルスポランティア連絡協議会
 きょうされん 石川支部
 北国新聞社
 中日新聞社 北陸本社
 読売新聞社 北陸支社
 朝日新聞 金沢総局
 毎日新聞 北陸総局
 NHK金沢放送局
 MRO北陸放送
 HAB北陸朝日テレビ
 テレビ金沢
 石川テレビ